

平成31年度使用中学校用教科用図書
「特別の教科 道徳」

東濃採択地区 調査研究結果



平成30年7月13日(金)
東濃採択地区協議会 研究員会

平成31年度使用中学校用教科用図書 「特別の教科 道徳」調査研究結果

= 目次 =

意見書 (全8者)

- ・東京書籍「新しい道徳」 1
- ・学校図書「かがやけ 未来 中学校道徳」 2
- ・教育出版「とびだそう未来へ 中学道徳」 3
- ・光村図書「中学道徳 きみがいちばんひかるとき」 4
- ・日本文教出版「中学道徳 あすを生きる」 5

及び「道徳ノート」

- ・学研教育みらい「中学生の道徳 明日への扉」 6
- ・廣済堂あかつき「中学生の道徳 自分をのばす」 7

及び「中学生の道徳ノート」

- ・日本教科書「生き方を創造する」 8

種 目【特別の教科 道徳 (中学校)】

発行者【2 東京書籍】

調査項目	意 見
内容に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年に応じて1 2の重点内容を設け、複数の教材で繰り返し学習できるようにしている。全学年で「生命の尊さ」について3教材を配列している。 ・ 「いじめ」「生命の尊さ」については全学年で複数教材を組み合わせたユニット構成となっている。「情報モラル」については各学年で取り上げ（1、1、3）、3年では2つの教材をそれぞれ「節度、節制」「友情」の異なった価値から考えさせている。 ・ 学年に応じて、環境問題、生命尊重、持続可能な社会などを取り上げている。巻末に6つの現代的課題別の「テーマで振り返ろう」のページがある。 ・ 郷土を考える教材は1年2教材、2年1教材、3年1教材。岐阜県関連の教材は1年「ぼくのふるさと」（恵那市串原）、2年「六千人の命のビザ」（杉原千畝）。郷土に関する教材は中学生の視点で描かれている。 ・ 各学年巻末資料「郷土のことを考える」で郷土に尽くした先人、伝統・文化、技術や産業が15～16例紹介されている。
構成と配 列に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材の冒頭ページ右下に他教科・領域との関連のマークが示されている。 ・ 実態に応じて教材配列の組替えの余地がある。巻末の「付録」に差替え用の5教材がある。 ・ 「A 自分自身」21教材、「B 人との関わり」21教材、「C 集団や社会」42教材、「D 生命や自然、崇高なもの」21教材。 ・ 各教材の冒頭はA B C Dの領域アイコン、大きめの「主題」（「みんなで考える観点」）と教材名を示している。
学習と指 導に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の後の「考えてみよう！」に発問2～3問。そのうち教材から離れて自分自身の生活を見つめる発問で問題解決的な学習を促している。役割演技を主体とした活動「ACTION!」を各学年2教材配置している。 ・ 答えが一つではない課題について考え、議論する教材を各学年1～3教材配置している。 ・ 巻頭の「話し合いの手引き」や、内容項目によって話し合いを促す問いが各学年6～8位置付けられている。 ・ 各教材につぶやきコーナーを設置し、自分の考えを書き込むことができる。 ・ 裏表紙に、「保護者の皆様へ」として親子でさまざまな問題について考えるように促している。 ・ 巻末に「自分の学びを振り返ろう」を設置し、学期毎に自己評価ができるようになっている。
表現や体 裁等に関 すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文にUD書体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・ 巻頭「道徳の学び方」は綴じ込み4ページで、「情報モラル」の話題で体験的に示されている。 ・ 目次は巻頭に時系列目次と内容項目別目次がある。 ・ 巻末に「付録」として差替え用5資料、「将来の姿」「郷土」「テーマ別一覧」「振り返り」「ホワイトボード用書き込みシート」「切り取り可能な心情円」が一括してまとめられている。 ・ A B版 重さ（平均）389g 3年生189p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【11 学校図書】

調査項目	意 見
内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で13の重点内容を設け、2つの教材で繰り返し学習できるようにしている。全学年で「生命の尊さ」について3～4教材を配置している。 ・「いじめ防止」という観点で各学年に教材を配置し（3、4、2）、直接的な教材と間接的な教材とを組み合わせている。3年ではいじめられた同級生の自殺未遂、教育委員会からの聞き取りの場面を取り上げている。「生命の尊さ」（4、4、3）「情報モラル」（1、1、3）共に複数の教材から考えることができる。 ・学年に応じて、五輪教育、持続可能な社会、福祉教育などを取り上げている。目次には10の現代的課題をマークで表示している。 ・郷土を考える教材は3学年とも2教材。岐阜県関連の教材は1年「飛騨の匠の造った家」、2年「希望のビザ（杉原千畝）」。
構成と配列に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの記録」（振り返り）のページが学期ごとで位置付けられており、学期内での組替えの余地がある。 ・「A 自分自身」21教材、「B 人との関わり」18教材、「C 集団や社会」48教材、「D 生命や自然、崇高なもの」18教材。 ・各教材の冒頭はA B C Dの領域アイコン、内容項目と教材名を示している。
学習と指導に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「学びに向かうために」に発問「考えよう」2～3問と資料から離れて自分自身の生活を見つめる「見つめよう」1問で、「基本—中心—後段」の構成で問題解決的な学習を促している。また、場面を再現するといった役割演技を促す問いが位置付けられた読み物教材がある。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する教材を各学年1～3教材配置している。 ・各教材に「意見交換」という話し合いを促す問いを位置付けている。 ・各教材に「学びの記録」コーナーを設置、また「心の扉」にも書く欄を設置している。 ・巻末に「保護者の方へ」を設定し、4領域ごとのねらいなど道徳の学習について説明している。 ・学期毎の「学びの記録」に毎時間の記録をし、巻末「一年間の振り返り」に年間の成長を記録できるようになっている。
表現や体裁等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・本文にUD書体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・目次の下部「道徳の学習を始めよう！」で50分の流れに沿って学び方を示している。 ・目次は巻頭に時系列目次、巻末に内容項目別「教材一覧」がある。 ・内容項目ごとに22の「心の扉」が各1ページあり、補助資料、振り返り、書く欄等がある。 ・A B版 重さ（平均）516g 3年生224p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【17 教育出版】

調査項目	意 見
内容に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて9～11の重点内容を設け、複数の教材で繰り返し学習できるようにしている。全学年で「生命の尊さ」「伝統文化・郷土愛」において2つ以上の教材を配列している。 ・「いじめ」に関わる資料では、いじめを直接的に扱った教材を各学年で複数取り上げ（2、2、3）、また、「生命の尊さ」などの視点からいじめを許さない間接的な教材を配置している。「情報モラル」は各学年2、2、1教材、「生命の尊さ」は各学年3、2、3教材取り上げ、「いじめ」「誇りある生き方」とともに、巻頭で「3学年をとおして深く考えていきましょう」とまとめて提示している。 ・学年に応じて環境問題、持続可能な社会、生命倫理などを取り上げている。 ・郷土を考える教材は1年1教材、（補充教材：3教材）、2年1教材（補充教材：1教材）、3年1教材（補充教材：1教材）。岐阜県関連の教材は2年「怒りの救助活動」（神岡警察署）、「6千人の命のビザ」（杉原千畝）。 ・各学年巻末に「都道府県ゆかりの人物とその言葉」（織田信長・高橋尚子・池井戸潤）が掲載されている。
構成と配 列に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・実態に応じて教材配列の組替えの余地がある。 ・「A自分自身」20教材、「B人との関わり」20教材、「C集団や社会」44教材、「D生命や自然、崇高なもの」21教材。「生命の尊さ」が11教材。Aの領域は、学年ごとに減っていく。また、Cの領域は、学年ごとに増える。 ・各教材の冒頭はA B C Dの色別の教材番号、教材名と導入の発問を示している。
学習と指 導に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・全教材に「学びの道しるべ」（発問）が3つずつ明記されている。問題解決的な学習を取り入れた教材が各学年複数ある。また、「やってみよう」で役割演技を取り入れた活動が1・2年で各2ページ、3年で1ページある。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する教材を各学年1～3配置している。 ・「学びの道しるべ」「やってみよう」で話し合いを促す問いが各学年9～12位置付けられている。 ・考えを書く欄は各学年1～5カ所ある。 ・巻末のページに家の人からの言葉を記入する欄が設けられている。 ・巻末に教材毎に自己を振り返る表と学期ごとの記録が位置付けられ、生徒が自己評価できる。また、「どんな〇年生になりたいか」を書き、来年度への目指す姿を確認できる。
表現や体 裁等に関 すること	<ul style="list-style-type: none"> ・本文にUD書体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・1年は「道徳って、どんなふうに学習したらいいの？」で学び方を提示。 ・目次は巻頭に時系列目次、巻末に内容項目別一覧がある。 ・巻末に「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」がある。 ・B5版 重さ（平均）342g 3年生177p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【38 光村図書】

調査項目	意 見
内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて12の重点内容を設け、全学年で「命の尊さ」について3教材を配列している。指導時期を考慮して4つのまとまりに分け、ユニットを組んだ教材配列になっている。 ・「いじめ」を取り扱う教材が各学年に複数あり、多様な価値から自分を見つめる構成になっている。「情報モラル」は各学年読み物資料とコラムが組み合わせられている。「生命の尊さ」は、各学年3教材を取り上げ、「連続性」「有限性」「偶然性」をそれぞれ考えることができるようになっている。 ・学年に応じて環境、食育、五輪教育などを取り上げている。7つの現代的課題に関するコラムが各2ページあり、資料に追加して考えを深めるようになっている。また巻末に「テーマ別教材一覧」として7つの現代的課題と教材との関連表がある。 ・郷土を考える教材は各学年1教材。 ・各学年巻末資料として1年「日本の郷土玩具」、2年「日本各地の世界遺産」（白川郷あり）、3年「日本の先駆者たち」。
構成と配列に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材末の「学びのテーマ」の「つなげよう」に他教科・領域へ関わらせて考える発問がある。巻末に他教科・領域との関連を明示した一覧表がある。 ・1年をシーズン1～4に分け、テーマ性をもたせた意図的な教材配列がなされている。 ・「A 自分自身」27教材、「B 人との関わり」21教材、「C 集団や社会」36教材、「D 生命や自然、崇高なもの」21教材。 ・各教材の冒頭はA B C Dの領域アイコン、内容項目と教材名を示している。
学習と指導に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・各教材の後に学習の手引きとなる1ページがあり、「学びのテーマ」「考える観点」3～4問、「見方を変えて」1～2問と、他教科・領域へ関わらせて考える「つなげよう」1～2問を示して「考え、議論する」授業の構成を促している。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する資料を各学年1～3教材配置している。 ・1、2年巻頭に、考え議論する道徳の学び方に関わる「対話で広がる道徳の時間」というページを設けている。話合いを促す問いが各学年1～6位置付けられている。 ・各教材に「私の気づき」という考えを書く欄を設けている。 ・裏表紙に「保護者の皆様へ」として親子で語り合うことを促している。 ・巻末に「学びの記録」を設け、4つのシーズンごとに考えを振り返る。
表現や体裁等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に明朝体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・巻頭の「本書で学ぶ皆さんへ」で学び方を示している。巻末の「どうして道徳を学んだらう」で道徳を学ぶ意義を示している。 ・目次は巻頭に時系列目次、巻末に内容項目別一覧「この教科書が目ざした1（2、3）年生の姿」がある。 ・指導内容と連動した2ページのコラムが各学年7つある。 ・B5版 重さ（平均）421g 3年生232p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【116 日本文教出版】

調査項目	意 見
内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて11の重点内容を設け、全学年で「生命の尊さ」、1・2年で「友情・信頼」、3年で「社会参画、公共の精神」について3教材を配列しており、指導時期を考慮した教材配列になっている。 ・「いじめ」に関わる資料は、各学年7、5、2教材以外に、自分の見方・考え方を振り返らせるための2ページ扱いのコラム「プラットホーム」や、役割演技「学習の進め方」をユニット化し、複数回配置されている。「情報モラル」(各学年3、4、3)や「生命の尊重」(各学年5、5、8)に関わり、複数の教材から自分のこととして考えることができるようになっている。 ・学年に応じて障がい者・高齢者福祉、持続可能な社会、消費者教育などを取り上げている。東日本大震災関連など、防災の教材が多い。(2、2、3)。「この教科書で学ぶテーマ」として巻頭に11の現代的課題別の目次を設けている。 ・郷土を考える教材は1年2教材(東日本大震災関連)、2年1教材、3年1教材。1・2年は中学生の視点で書かれている。岐阜県関連の教材は3年「命のトランジットビザ(杉原千畝)」、2年の参考資料「郡上おどり」。
構成と配列に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に他教科・領域との関連を明示した一覧表がある。 ・実態に応じて教材配列の組替えの余地がある。 ・「A 自分自身」21教材、「B 人との関わり」18教材、「C 集団や社会」45教材、「D 生命や自然、崇高なもの」21教材。「思いやり、感謝」が各学年1教材。 ・各教材の冒頭はA B C Dの領域アイコン、主題と教材名を示している。
学習と指導に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後に「考えてみよう」1問、教材から離れて自分自身の生活を見つめる「自分に+1」1問を示している。「問題解決的な学習」「体験的な学習」の手法に適した教材には、各学年6～9カ所の「学習の進め方」でその活動の流れを示している。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する教材を各学年4～5教材配置している。 ・巻頭で考え、議論し、深める道徳科の学び方を説明している。話し合いを促す問いが「学習の進め方」に各学年7～9ある。 ・別冊「道徳ノート」を使って書く活動が設定されている。 ・巻末に「先生、保護者の方へ」として、親子でさまざまな問題について考えるように促している。 ・別冊「道徳ノート」で自分の考えの深まりや気づきなどの学習状況を毎時間自己評価できる。
表現や体裁等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・本文にUD書体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・巻頭に「道徳科で学ぶこと」「道徳での学び方」で学び方を示している。 ・目次は巻頭に時系列目次とテーマ別目次、巻末に内容項目別一覧がある。 ・指導内容と連動した「プラットホーム」(各学年7)、話し合いや役割演技等の活動を示した「学習の進め方」(各学年6～7)、補助教材「参考」(各学年6～8)がある。 ・B5版 重さ(平均) 332g 3年生191p ノートは40p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【224 学研教育みらい】

調査項目	意 見
内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて10～12の重点内容を設けており、特に1年「友情、信頼」、2年「勤労、公共の精神」、3年「国際理解・国際貢献」に加え、全学年で「生命の尊さ」について3教材を配列している。 ・「いじめ」に関わっては、各学年4、4、6教材を取り上げ、直接的な教材と間接的な教材から他者と共によりよく生きることを考え、議論する形式となっている。また各学年1つの「クローズアップ」のコーナーで、いじめ防止について考えることができる。「情報モラル」は、各学年4、2、3教材、「生命の尊さ」については各学年3教材が取り上げられている。 ・学年に応じて持続可能な社会、福祉教育、消費者教育、食育などを取り上げている。防災では熊本地震、東日本大震災の被災者からの声などを取り上げている。「様々なテーマで学ぼう」として巻頭に6つの現代的課題別の目次を設けている。 ・郷土を考える教材は各学年1教材。岐阜県関連の教材は1年のコラムに「白山国立公園」、3年「白川郷に魅せられて」「杉原千畝の選択」。3年の2教材はそれぞれ資料がある。
構成と配列に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に他教科・領域との関連を明示した一覧表がある。 ・実態に応じて教材配列の組替えの余地がある。 ・「A自分自身」24教材、「B人との関わり」22教材、「C集団や社会」37教材、「D生命や自然、崇高なもの」22教材。 ・各教材の冒頭はA B C Dの領域を示すラインと教材名を示している。
学習と指導に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後に発問が1問示されている。各学年3～4カ所の「深めよう」の中に役割演技を取り入れた活動「やってみよう」がある。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する教材を各学年1～3教材配置している。 ・「深めよう」で話し合いを促す問いが各学年5～8位置付けられている。 ・「深めよう」「クローズアップ」に各学年8～16書く欄がある。 ・巻末の「心の四季」に1年間の成長を書く欄がある。
表現や体裁等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・本文にUD書体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・「道徳で学ぶこと、考えること」「考えを深める四つのポイント」で学び方を示している。 ・目次は巻頭に時系列目次と内容項目別目次、巻末に内容項目と他教科・領域との関連一覧がある。 ・指導内容と連動した「クローズアップ」「クローズアッププラス」（各学年21～27）がある。 ・A4版 重さ（平均）415g 3年生184p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【232 廣濟堂あかつき】

調査項目	意 見
内容に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて9つ重点内容を設け、複数の教材で繰り返し学習できる。そのうち、全学年で「自主、自律」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」について3教材を配列している。 ・「いじめ」に関わっては各学年1、1、1教材で学んだあと、別冊ノートで1年「いじめ撲滅宣言」、2年「いじめの構造」、3年「世界人権宣言」（公正、公平、社会正義）と学年ごとに考えることができる。また間接的な教材も複数位置付けられている。「情報モラル」は、各学年2教材取り上げている。「生命の尊さ」では、各学年3教材が取り上げられている。 ・学年に応じて生命倫理、持続可能な社会、消費者教育、食育などを取り上げている。巻末資料に各学年で情報モラルと持続可能な社会に関する各2ページのコラムがある。 ・郷土を考える教材は各学年1教材。3年は東日本大震災関連。
構成と配 列に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・領域との関連のある資料がある。 ・実態に応じて教材配列の組替えの余地がある。 ・「A 自分自身」24教材、「B 人との関わり」21教材、「C 集団や社会」36教材、「D 生命や自然、崇高なもの」24教材。 ・各教材の冒頭は教材名と「道徳ノート」の参照ページとA B C Dの領域を示す点を示している。
学習と指 導に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「考える・話し合う」に、「学習の手がかり」と教材に関する発問2～3問、「考えを広げる・深める」で教材から離れて自分自身の生活を見つめる発問1～2問があり、問題解決的な学習を促している。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する教材を各学年1～3教材配置している。 ・話し合いを促している教材が複数ある。 ・別冊「道徳ノート」には、学習の記録とともに、自分の考えを書き込むことができるようになっている。 ・道徳ノートに、家族の一員としての役割などを書く欄がある。 ・別冊「道徳ノート」の巻末に毎時間の5段階自己評価、学期ごと、内容項目ごとの5段階自己評価、目標と振り返りを書く欄がある。
表現や体 裁等に関 すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた文字の大きさや行間になっている。色覚特性に適応するデザインである。 ・巻頭に「道徳の時間とは」で学び方を示している。 ・目次は巻頭の時系列目次、巻末に内容一覧と内容項目別目次がある。 ・巻末資料として各学年に情報社会と持続可能な社会の実現に関する参考資料がある。 ・A B版 重さ（平均）347g 3年生152p ノートは60p

種 目【特別の教科 道徳（中学校）】

発行者【233 日本教科書】

調査項目	意 見
内容に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じて11～12の重点内容を設け、複数の教材で繰り返し学習できるようにしている。全学年において「友情、信頼」を3教材配列している。学習指導要領に示された内容順に教材が配列されているので、必要に応じて各学校において年間指導計画を作成する。 ・「いじめ」は各学年4、2、3教材、「情報モラル」は各学年2、2、1教材「生命の尊さ」は各学年2、2、3教材。 ・学年に応じて環境教育、持続可能な社会、LGBTなどを取り上げている。 ・郷土を考える教材は1年2教材、2年2教材、3年1教材。岐阜県関連の教材は1年の表紙に白川郷、3年「苦悩の決断（杉原千畝）」。
構成と配列に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・22の内容項目順に配列されており、実態に応じて各学校で年間指導計画を作成する。 ・「A 自分自身」20教材、「B 人との関わり」23教材、「C 集団や社会」47教材、「C 生命や自然、崇高なもの」21教材。 ・各教材の冒頭はABCDの色別の資料番号と教材名を示している。
学習と指導に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」に発問2～3問と、教材から離れて自分自身の生活を見つめる発問を示して問題解決的な学習を促している。 ・答えが一つではない課題について考え、議論する資料を各学年1～3教材配置している。 ・各教材に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」と話し合いを促す問いがある。 ・「書いてみよう」「話してみよう」に各学年3カ所書く欄が設けられている。 ・教科書の使い方を説明するページで、家庭や地域社会について触れている。 ・巻末に、内容項目ごとの4段階自己評価と1年間の授業や心の成長を書く欄がある。
表現や体裁等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・本文にUD書体を使用し、色覚特性に適応するデザインを採用している。 ・巻頭の「道徳科って何を学ぶの」「教科書の使い方」で学び方を示している。 ・目次は巻頭に内容項目別目次、巻末に内容項目別「学習指導要領対応表」がある。 ・指導内容と連動した参考資料「もっと知りたい」（各学年1～4）、「考えてみよう」「話してみよう」「書いてみよう」（各学年3～4）、「届けたい言葉」（各学年2～4）、「込められた想い」（各学年3）がある。 ・B5版 重さ（平均）336g 3年生192p